

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター にじいろキッズらいふ (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年12月5日		～ 令和7年12月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	令和7年12月5日		～ 令和7年12月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 33
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月22日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性に合わせた視覚的な構造化と、安心できる生活空間の確保	どのクラスでも絵カードなどを用いた視覚的な構造化を徹底し、こどもが理解しやすい環境を作っています。また、活動内容に合わせてパーテーションを活用したり、刺激を減らす工夫を行うなど、こどもが落ち着いて過ごせる空間づくりを意欲的に行っています。	現在の取り組みを継続しつつ、デッドスペースの有効活用や備品配置の再検討を行い、活動内容に応じてより柔軟でゆとりのある空間を提供できるよう環境の充実を図ります。
2	状況に応じた柔軟な職員配置と、他部署・専門職を含めた手厚いチーム支援体制	日々の利用人数やこどもの状態に合わせて職員配置を工夫し、ケアが必要な際やトイレ混雑時には、担当者が抱え込まずにヘルプを出し合える連携体制をとっています。専門職(PT・OT等)とも連携し、チーム全体で手厚い支援にあたっています。	園だよりやSNSなどを積極的に活用し、事業所での具体的な支援プログラムの内容やこどもの様子を保護者へ視覚的かつ分かりやすく発信することで、ご家庭との連携体制をさらに強化します。
3	毎日の安全・衛生管理の徹底と、第三者の視点を取り入れた継続的な業務改善(PDCA)	毎日の清掃やおもちゃのアルコール消毒を徹底し、清潔な環境を維持しています。また、保護者からのご意見や外部からの評価を真摯に受け止め、定期的な会議を通じて現状把握や目標の再確認を行い、業務改善へと繋げています。	ICTツールなどを活用して会議や記録業務を効率化し、非常勤を含めた全職員での振り返りや情報共有の時間をより多く確保することで、組織全体での支援の質向上に努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設設備の一部に見られる老朽化への対応	経年劣化により、一部の建具に不具合(ドアの開閉がきつい等)が生じている箇所や、設備の老朽化(下水の臭気など)が見られる箇所があります。	専門業者と連携して修繕計画を立て、不具合や老朽化が見られる箇所から順次修繕を進めていくことで、こどもたちがより安全で快適に過ごせる環境を整えます。
2	多様化するニーズへの対応力強化と、全職員の学びの機会の均等化	こどもの多様なニーズに応えるためにはさらに充実した人員体制が必要な場面があります。また、シフト勤務等の影響で、非常勤職員を含めた全職員が均等に研修に参加したり、密な情報共有を行うことが難しい現状があります。	ボランティアの積極的な活用を検討し、支援体制の拡充を図ります。また、動画研修の導入や資料共有のデジタル化を進め、勤務形態に関わらず全職員がスキルアップできる学びの機会を提供し、支援スキルの底上げを図ります。
3	送迎時における駐車場の混雑緩和と安全確保	保護者アンケートの結果から、利用者が多い時間帯(特に帰りの時間帯)に駐車場が混み合い、全クラスが重なることで狭く感じられることや、出入口のカーブミラーが見えにくいといったご意見が挙げられています。	クラスごとに帰りの時間帯を少しずつずらすなどの工夫を検討し、駐車場の混雑分散を図ります。また、カーブミラーの角度調整や見え方の改善、送迎時の安全確認の呼びかけを徹底し、保護者の方が安全かつスムーズに送迎できる環境改善に努めます。